

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根東小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の学校評価については、主に以下のような成果(☆)や課題(★)があった。 ☆全体的にどの項目についても目標を達成することができた。各担当者が企画・立案した計画について全校が一体となって取り組むことができた成果といえる。 ★「学力の向上」の項目において、授業中に進んで自分の考えを発言している点での児童評価が低かった。児童が主体的に学習に取り組んだり、自信をもって自分の考えを表現したりできるように授業改善に努めていく。 ★特別支援の児童や不登校傾向の児童が増えつつあることから、教職員の児童理解の向上や専門的なスキルの習得、課題に対しては組織的に対応できるよう共通理解と共通実践を図っていく。
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに、たくましく生き抜く東っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な学力向上と個別最適な学びと協働的な学びの推進と児童の自己肯定感の向上(学びづくり部) ・心の安心を育む学校風土の確立と豊かな体験活動の充実(人づくり部)

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童の主体的な学びを促し、自分の考えをもち、表現できる力を高める指導のあり方を探る。	・1単位時間や単元の中心活動の中で自分の考えを伝えたり、書いたりできた児童の割合が70%以上 ・児童の表現力を高めるために、授業の工夫に努めたと思う教職員の割合が80%以上 ・ICT機器を活用して授業が分かりやすいと回答した児童が80%以上。	・自分なりの考えを書き表し友達と互いに考えを伝え学び合うなど協働的な学びを取り入れた授業改善を行う。 ・ICT機器(電子黒板やタブレット等)を授業の中で有効的に活用する。	A	・「児童の表現力等を高めるために、授業の工夫改善すること」「ICT機器を効果的に活用すること」に対して肯定的な回答をした職員は100%であった。今後も、授業改善に取り組み、自分の考えを適切に表現できる児童の育成に努めたい。 ・学校生活アンケートにおいて「電子黒板やタブレットを使った授業は分かりやすいですか」の項目に対し95%の児童が肯定的な回答であった。児童のタブレット活用時間も増えてきている。今後も有効な活用に向けていきたい。	A	・どの成果指標も、目標より高い進捗度となっている。しかし、自分の考えを伝えることは中間結果に比べ、減少している。単元を通して自分の考えを伝えたり、書いたりして、表現力を高めるための授業改善に取り組みながら、自分の考えを適切に表現できる児童の育成に努めていきたい。 ・ICT機器の活用時間は、教員、児童ともに増えている。今後も教科の特性を生かした効果的な活用方法を研究する必要がある。	A	・自分の考えを表現したい気持ちを実際の表現につなげるのがつなげるのが難しい。まず意欲を育て、表現活動の場を作ることが大事だろう。 ・ICT機器の活用の良さの一方、アナログな活動とのバランスを取ることも必要だろう。	田中・久保山・福井
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活アンケートで、豊かな心を育む項目において、肯定的な回答をした児童の割合が90%以上、保護者90%以上。	・「人権集会」や「命を考える日」の取り組みを通して、命の大切さを実感させる。 ・異学年交流体験、保護者や地域人材を活用した授業を実施する。 ・保護者や地域の方々への道徳授業公開「ふれあい道徳」を実施する。	A	・学校生活アンケートにおいて、豊かな心を育む項目において肯定的な回答をした児童の割合が90%以上、保護者の割合が90%以上を目標としたが、中間アンケートでは、児童が91%、保護者が93%と概ね期待通りの成果が表れている。 ・今後実施する集会等を効果的なものにし、異学年交流や地域交流、ふれあい道徳の実施を推進していく。	A	・豊かな心を育む項目において、児童・保護者とも90%以上が肯定的な回答を目標としたが、第2回アンケートでは、児童が94%、保護者は85%が肯定的に評価していた。児童はどの項目でも中間評価を上回っていた。各種集会やあいさつ運動などの取組の成果が表れていると考える。 ・保護者は、前回のアンケートより減少していることから、学校以外でのあいさつや正しい言葉遣いの推進、保護者や地域への情報発信が必要であると考える。	A	・肯定的な回答が児童、保護者ともに8~9割以上はすばらしい結果。 ・地域での児童のあいさつは進んできていないと感じる場面がある。(朝の交通立番)
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等において、学校いじめ防止基本方針に基づき組織的対応ができていると回答した教職員の割合が80%以上。	・いじめの認知・覚知に対するマニュアルの見直しを行う。 ・月1回生徒指導連絡協議会を行い、児童理解といじめの早期発見に努める。 ・なかよしアンケートを年間6回行う。	A	・いじめ防止等において、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的対応ができていると回答した職員は80%を目標としているが、中間アンケートでは、85%が対応できていると回答している。引き続き、教職員での連携を図りながら、組織的対応を行っていきたい。	A	・いじめ防止等において、学校いじめ防止基本方針に基づき組織的対応ができていると回答した教職員の割合が80%以上を目標としていたが、アンケートでは、100%の教職員が対応できていると回答している。今後も、いじめ防止等の取組を続けていく。	A	・教職員単独でいじめを把握することは難しいだろう。教職員同士で児童の気になる様子や変化の情報交換、また事案が発生した場合も、組織的な対応を今後も続けてほしい。 ・重大事案はないようですが、いじめ等はどこかであつているかもの前提で教職員の目配りをよろしく願います。	宮原・西森
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・年間の学校行事や学級活動の中で「出番・役割・承認」運動に全職員で取り組み、よさを認めあていく。 ・学期ごとに学習面・生活面の個人のみあてをもちあわせて取り組ませる。 ・道徳等で「夢」や「なりたい自分」に関する取組を実施し、それに向けて努力しようとする気持ちを向上させる。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は77%であった。引き続き「光るところ見つけカード」等を活用していきたい。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は77%で、目標を達成することができた。今後も道徳の時間等を使って、児童の意欲を高めていきたい。	A	・「先生からよいところをほめてもらっている」と回答した児童は75%、「将来の夢や目標がある」と回答した児童は84%であった。 ・今後も「光るところみつけカード」を活用したり、夢に向かって努力している事例を紹介したりして意欲を高めていきたい。	A	・「出番・役割・承認」運動が目に留まった。一人ひとりの児童を大切にすばらしい活動になると感じた。	宮原・西森
●心の教育	○児童の自己肯定感の向上	・学校生活アンケートで自分にはよいところがあると思う子どもの割合が75%以上 ・「先生は自分のよいところを認めてくれている」と回答した児童80%以上 ・「心のタイム」等で、「光るところ見つけ」カードを年間8枚以上書く。	・年6回の「なかよしアンケート」に自己肯定感に関わる項目を入れて実施する。 ・各学級でほかほか言葉や「光るところ見つけカード」などでみんなの前で紹介し、称賛するよう取り組む。 ・年8回の「こころタイム」による光るところ見つけ活動や教職員(生活面)保護者(学校行事)による承認活動に取り組む。	A	・「自分にはよいところがある」と答えた児童が80%であった。思いやりがあるところ見つけは93%で、全校で取り組んでいるよいところ見つけが浸透してきていると考える。教師側も視野を広げ、児童のよいところをほめることを増やし、児童の自信につなげていきたい。 ・授業参観時に、保護者に「光るところ見つけカード」を置いてもらったことは効果的であった。	A	・アンケートで「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童が84%、「先生は自分のよいところを認めてくれている」に回答した児童が75%という結果だった。今後も自己肯定感を高め、卒業や進級に向けて目標をもって意欲的に取り組める活動を推進していきたい。 ・「光るところみつけ」を7回実施することができた。「心のタイム」の時間以外にも光るところみつけを実施する学年が増えた。	A	・自己肯定感向上に向けた様々な取組がよい結果につながったと思う。 ・先生は自分のよい所を認めてくれないと思っている児童が9%いるので、伝え方の工夫が必要ではないか。	長田・大久保

●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	・早寝、早起き、朝ごはんの取組ができていると回答した児童の割合が80%以上。 ・むし歯保有率が佐賀県平均の23.77%以下にする。	・早寝、早起き、朝ごはんの啓発を年2回実施する。 ・7月に食生活アンケートを実施し、実態を把握する。 ・11月に朝ごはんの実践シートを実施し、家庭へ啓発を行う。 ・むし歯保有者の治療勧告書を個人面談時に個別に配布し、保護者の受診への意識付けを行う。 ・歯科衛生士によるブラッシング指導(歯磨き指導)を実施し、学年で外遊びを決め、実施する。 ・目標を決めて「スポーツチャレンジ」に参加する。	A	・早寝、早起き、朝ごはんの取組ができていると回答した児童の割合が82%で十分達成できた。 ・6月の時点で、5歳の保有率は、17%であり、目標を達成できた。後期は、歯科衛生士による指導や12月の未受診者対象のブラッシング指導を実施していく。	A	・早寝・早起き・朝ごはんの取組は達成できている児童が87%で達成できた。生活アンケートや実践アンケートの活用により、家庭への啓発ができた。集会等で全体指導ができたことも効果的だった。課題としては、睡眠時間の減少傾向が認められる。 ・5歳の未処置率は1月時点で11%(17名)であり、県平均よりも低く、達成できた。	A	・「早寝・早起き・朝ごはん」、虫歯治療は家庭の問題で、達成率を上げるのは、困難な面がある。児童を通して、家庭への啓発を続けることが大事だろう。個人懇談の時の直接的な呼びかけは良い啓発方法であると思った。	大久保・田中
	○運動習慣の改善	・遊べる日に、外で元気に遊んだとアンケートに答えた児童が75%以上。	・11月に朝ごはんの実践シートを実施し、家庭へ啓発を行う。 ・むし歯保有者の治療勧告書を個人面談時に個別に配布し、保護者の受診への意識付けを行う。 ・歯科衛生士によるブラッシング指導(歯磨き指導)を実施し、学年で外遊びを決め、実施する。 ・目標を決めて「スポーツチャレンジ」に参加する。	A	・全校児童の73%が昼休みに外遊びをしていると回答していた。熱中症指数の関係で、外遊びに行く児童は減りかかったが、去年よりも「外で遊ぶ」と回答した児童は増えていた。 ・2学期は涼しくなったタイミングで、月1の外遊びを呼び掛けている。	A	・全校児童の79%が休み時間に外遊びをしていると回答していた。昨年よりも「外で遊ぶ」児童が増えている。 ・教員が積極的に外に出て、児童と遊ぶことで、以前よりも外で遊ぶ児童が増えたと考える。今後、児童だけでなく、教員にも外で遊ぶ機会が増えていくよう声掛けを行いたい。	A	・外遊びは、男女差、学年差、個人差、発達段階においても違いが出てくると思うので、学年ごとや個人の目標をもたせては、どうだろうか。 ・月1回以上の学年での外遊びが実施されていない時もあるようなので教員自ら行ってもらえたら遊ぶ機会が更に増えるのではないかと考える。	米津・岩橋
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・業務の内容の工夫・精選、会議のペーパーレス化、終了時刻を明確にするなど効率的に業務を遂行する。 ・全職員で協働的に教育活動を行い、時間外勤務時間の削減に取り組む。	A	・1学期間(4月～7月)で、時間外在校等時間の上限(1月45時間)を守れた教職員は約88%であった。また、学校評価アンケートで、「計画的効率的に業務遂行できた」と回答した職員の割合は100%であった。在校時間を意識した業務遂行ができているといえる。 ・2学期は大きな学校行事も控えているため、全職員で協働的に取組をしていく。	A	・時間外在校等時間の上限(1月45時間)を守れた教職員は88%であった。また、「勤務時間を意識し、計画的・効率的に働いている」と回答した職員は前回と同じく100%であった。在校時間を意識した働き方ができている。 ・年次取得の14日を達成した職員は少なかったが、平均で約11日以上であった。今後も長期休暇において、年休が取りやすいような研修や学校行事等の組み方に努めたい。	A	・就業時間内に個人の仕事ができる時間の確保ができてこそ、時間外在校時間を増やさないことにつながる。今後も定時退勤を守る職場であってほしい。	教頭
	○教職員の心身の健康を支える職場環境づくり	○気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員80%以上。	・相談しやすい職員室の雰囲気づくり ・職員が休みを取りやすい体制の工夫	A	・学校評価アンケートで、気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員は100%で目標を達成することができた。今後も職員が休みを申請した際の補欠体制の整備や、相談しやすい職員室の雰囲気づくりに努めたい。	A	・気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員は86%で、目標の80%以上を達成することができた。気持ちよく仕事ができる職員室づくりや出張や休みを申請した際の補欠体制の整備に努めた結果と考える。	A	・補充体制整備に努めて、気持ちよく仕事ができる職場環境ができていくよう努めたい。 ・児童に対してストレスを感じている教員に対してのメンタルケア等も念頭に置いてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の理解と実践力の向上	○特別支援教育に関する校内研修を年2回以上行う。 ○特別な配慮の必要な児童に組織的に対応できたと回答した教職員が70%以上	・配慮の必要な児童理解の向上を図るために、年度初めと夏休みに研修会を実施する。 ・月1回職員全体で共有する場を設ける。 ・場合に応じてケース会議を開き、外部機関とも連携を取り合って改善策を見つけていく。	A	・年度初めに気になる子の共通理解を実施できた。夏休みには、本校職員の宮原純先生を講師として校内研修を実施した。 ・生徒指導連絡協議会では、気になる児童について毎回共通理解できた。 ・9月までに巡回相談2回、支援会議1回、ケース会議3回を行った。 ・組織的に対応できたと肯定的に回答した職員は82%で目標を達成できた。引き続き組織的に対応しなければならぬ。	A	・R7年度後期(9月～1月)は、巡回相談2回、支援会議、ケース会議をそれぞれ5回行った。 ・生徒指導連絡協議会において、気になる児童について毎回児童の共通理解を図り、全体で共通実践をすることができた。 ・特別な配慮が必要な児童に組織的に対応できたと回答した職員は93%で、全職員で対応できている。突発的な言動をとる児童もいるので、今後も組織的な対応をしていきたい。 ・YOSS会議を通して、児童の困り感から医療機関(WISC)検査へつなげた。	A	・生徒指導、いじめ防止同様、特別支援においても教職員の組織的対応は必須である。 ・突発的行動をとる児童の対応には、支援員配置等マンパワーが必要であると考えられる。	岩橋・長田・中尾

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○読書活動の推進	○児童の豊かな読書力を推進する。	・進んで読書をしたと思う児童の割合が85%以上。 ・読書の目標冊数を達成した児童90%以上	・読書推進のため、学級担任による児童への呼びかけを強化する。 ・図書祭などのイベントを行い、図書館の魅力を発信する。 ・100冊読んだ児童やおすすめの本30冊を読んだ児童の紹介や掲示により、意欲を高める。	A	・学校評価アンケートで、「図書館で本をたくさん借りて読んでいますか」の項目で、約81%の児童が「たくさん読書をしている」と回答している。成果指標85%に対して、80%以上を満たしている。十分達成としていた。目標は達成できている。また、6学年中4学年は、1学期終了の時点で、年間目標冊数(100冊)の2分の1を超えており、残り2学期も40冊以上なので、児童の90%以上が、年間目標冊数を達成できると考える。	A	・「図書館で借りた本などを、たくさん読んでいますか。」の項目では約84%の児童が「たくさん読んでいる」と回答し、前回より3%上昇している。十分達成できている。 ・2学期終了時点で、全校児童159名中115名の児童が年間目標冊数(1～4年生100冊、5～6年生80冊)を達成している。現在の冊数から考えると、年間では、93%の児童が目標冊数を達成できると考えられ、取組の成果は上がっていると考えられる。	A	・年間目標冊数が9割超えが素晴らしい。 ・読書の質(内容)や未達成率1割の読書状況は気に掛かる点である。 ・保護者アンケートでは「読書に親しむ」の評価が低いようです。学校または家庭で読んでいるかの見極めが必要かもしれません(家庭での読書の時間の設定等)。学力テストでの読書力の数値が気になります。 ・児童からの本購入のリクエスト等があると更に読みたいという意欲向上につながるのではないかと。	原口・中島
○地域とともにある学校づくり	○保護者、地域、関係機関との連携の推進(幼保小連携含む)	・教育活動の充実のため、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたと回答した教職員80%以上。 ・学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えていくと回答した保護者80%以上。	・学校だよりや各学年からのお便り、ホームページ等で、教育活動の様子を随時伝える。 ・地域人材リストや地域連携カリキュラムを効果的に活用できるように、随時更新する。	A	・「学校だよりや学級通信、ホームページ等を通して学校教育目標や学校の様子をわかりやすく伝えていく」と思っていますか」の問いに、肯定的な回答をした保護者は98%であった。 ・「情報発信を密にし、保護者等との連携を図っている」との問いに肯定的な回答をした職員は100%であったが、今後も地域や関係機関とも更なる連携を図ってきたい。	A	・「学校・学級だよりや連絡等で情報発信を密にし、保護者・地域・関係機関との連携を図っていますか」の問いに肯定的な回答をした保護者は、96%であった。また、「情報発信を密にし、保護者等との連携を図っている」との問いに肯定的な回答をした職員は93%であった。今後も、保護者、地域の方々、関係機関と更なる連携を図り、児童のよりよい成長につなげていく。 ・幼保小連携では、園と小学校で互いの情報共有をすることができた。	A	・情報発信は密にできており、各関係者との連携もよく図られている。 ・ホームページは行事スケジュールや校時表など更新されていないところがあったので、よろしく願います。 ・マチコミメールは、地域住民として学校を知る手段として役立っている。	教頭・中島

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望

・全体的に、どの項目についても目標を達成することができていた。各担当者が企画・立案した計画について、全校が一丸となって取り組むことができた成果といえる。今後も、取組の良かった点は継続していきたい。
・授業中進んで自分の考えを発言している点についての児童評価が低かった。児童が、自信をもって自分の考えを表現したり主体的・意欲的に学習に取り組んだりできるように、学習過程に発表の場を必ず設定するようにしたり、ICTを活用したりするなど授業の工夫に努めていく。
・「先生は自分のよいところを認めてくれている」という点の評価が中間評価より低くなっていた。「自分にはよいところがある」と自己肯定感をもち、いろいろなことに自信をもって挑戦していけるよう、「ほめるから はじめる はじめる」を常に意識しながら組織的に指導や支援にあたっていきたい。